

児童発達支援ガイドラインによる自己評価について

2022年 1月

ハート亀沢

児童発達支援の質の向上と支援内容の適正化を図る為、
児童発達支援に基づき実施した自己評価の結果を公表致します。

回収率：職員100%（10名/10名）

《調査からの読み取り・改善点》

	調査からの読み取り	改善目標・工夫している点
環境・体制整備	訓練室のスペースは適切であるが、児童の体格差や行動の特性により同じスペースを使用しても狭く感じることがある。職員の配置人数は適正であるが、児童の食事・トイレ介助の必要性にバラつきがあり、時折不足と感じることがある。バリアフリー化に関しては、肢体不自由児（車椅子）の受け入れは無いが、歩行介助が必要な児童に関しても困難なほどの段差もあるわけではないので、適切な配慮をしている。	児童の行動の特性など情報共有をしながら、活動内容に合わせた動線の配慮。食事・トイレ・歩行時の介助の必要性にバラつきはあるが、職員の配置を工夫し不足の無いようにしている。
業務改善	各児童の目標設定・振り返りの時間は不足しているように感じる。年一回ホームページに公表している。月一回のスタッフ会議にて活動内容の提案・支援内容・方法の確認を行っているが、全体での情報共有が不足している感じがある。	各児童の目標設定・振り返りの時間をきちんと確保し、支援内容や方法の確認を含め職員全体で情報を共有し、しっかり周知徹底していく。
適切な支援の提供	スタッフ会議にて日々の活動の中で気付いた変化、成長の様子、問題点への対応などを話し合い職員間で統一した対応策の提案を行っている。問題への対応に関しては、学校やご家庭からの情報を頂き、対応を統一するようにしている。支援前の当日の動線確認や、担当の割り振りは固定化されていないように感じる。計画書を作成するにあたり、保護者との面談を行っている。平日・休日・長期休みに応じて課題を細やかにという事に関しては、現状は細かく設定は出来ていない。	日々の活動の中で、ちょっとした変化にも気づくことが出来るように、ご家庭との普段からのやり取りや面談時、学校での様子の引継ぎ等からも情報をしっかり収集し会議の中で、情報の共有をしっかりと行い、支援内容や目標設定を各自把握しながら対応の統一性を図っていく。平日・休日・長期休みに関しては、会議などで細かいところを詰めながら少しずつ細かな課題設定を入れて行くようにする。
関係機関や保護者との連携	関係機関との連携に関しては、電話やメール文書にて定期的なモニタリングの実施により自事業所での普段の様子を伝えながら情報の共有を図っている。保護者との連携に関しては、送迎時の引き継ぎ時や、定期的な面談にて普段の様子を伝え合うなどしている。	引き続き相談員や関係機関との連携を図り日頃の様子や課題などの情報の共有を行っていく。また、障害のない子どもとの交流に関しては、現状難しいところもあるので、実施予定はなし。
保護者への説明責任等	連絡帳やLINE、メールにて保護者からの相談や要望、課題について その都度対応している。定期的に新聞を発行し個人情報の取り扱いなどには十分注意しながら普段の活動の様子を伝えている。	利用時の連絡帳を活用しながら、送迎の引き継ぎ時に保護者とのやり取りを行う中で、伝えるべき事は伝えるなどして引き続き取り組んでいく。
非常時等の対応	緊急時・防犯・感染症対応マニュアルの提示、定期的な研修を行っている。ヒヤリハット・アクシデントの報告書にて事例報告を行っている。	災害時に備え各事例ごとの避難訓練の実施。ヒヤリハット・アクシデントの事例報告に基づいて情報の共有をしながら改善策をしっかりと話し合い実行していく。